

# 古文書俱楽部

【発行】

秋田県公文書館

2014.11

第 62 号

一か月に及んだ国民文化祭も盛況のうちにフィナーレを迎えました。特別展示室では「アーカイブズで秋田の文化を探れ!」(後期)を二月三〇日まで開催中です。ぜひご覧ください!

## 祭りのあとに… ～アーカイブズ講座より～

今年度の公文書館講座も一月七日(金)のアーカイブズ講座をもつて終了となりました。

たくさんのご参加、ありがとうございました。

アーカイブズ講座の第3回では、秋田の食や祭りに関する資料を紹介しました。特に祭りの資料として活躍したのが「風俗問状答1～3」(混架七一七五六一～三)です。

文化年間、幕臣の屋代弘賢は日本各地の風俗調査のため、「風俗問状」という質問状を木版で印刷し、全国に送付します。秋田藩では、藩校明徳館の儒者・那珂通庸が回答を作成しました。当館が所蔵する3冊は、その写しと思われます。2冊は秋田の風習や年中行事の説明で、例えば「眠なかしと申事」(現在の竿燈について)などです。

：長き竹に横手を幾段も結び大なる灯籠三十  
四十五十も付る也、角力の者をえらひて一人  
にて持出し手代りの三四人添て其しりへに大  
鼓らんぼうにうちて一町きりに若きもの群れ  
従ふ



現在の竿燈では差し手の技が競われますが、当時は力自慢の要素もあつたようです。

3冊のうち1冊には祭りや年中行事の様子が色彩豊かに描かれており(写真)、くずし字が苦

手でも十分に楽しめます。インターナシップの大学生がたまたまこの資料を見た際、地元に特有のカマクラの図を発見して、感激していました。

先日閉幕した国民文化祭の最終日には、竿燈をはじめとする県内の国指定重要無形民俗文化財が秋田市に集結し、勇壮な山車の運行や優雅な踊りで沿道の人々を楽しませてくれました。

「風俗問状答」には、「正月十五日 割和野のむまや市神祭」(刈和野の大綱引き)や「六月廿一日 土崎神明祭」(土崎神明社祭の曳山行事)などの記述も登場します。公文書館の資料で、祭りの余韻を味わってみませんか?

【鍋島 真】



一〇月二十五日(土)、秋田テルサで「読書のつどい2014秋田」が開催されました。今年度から制定された「県民読書の日(一一月一日)」の記念事業で、当日は内館牧子氏の講演や大型絵本のおはなし会など、読書に関連する様々なイベントが実施されました。当館では、完成したばかりの「出

羽一国御絵図」(県C一六〇三)原寸大複製を初公開しました。この絵図は正保年間に作成されましたが、その巨大さ(縦五三メートル四方のピースを六〇枚作成して並べることで、原寸大で再現することができました)。

实物展示は困難です。今回の複製絵図は、約1メートル四方のピースを六〇枚作成して並べることで、原寸大で再現することができました。また、特殊な素材を使用しているため、絵図の上に乗つて見学することも可能(土足・裸足禁!)。延べ一八〇人もの方々が絵図の上を行ったり来たりするのも、複製・原寸大ならではの光景でした。たくさんのご来場、ありがとうございました。

## 読書のつどい 2014 秋

## 秋田の敵討ちはなし

敵討ちの定番『忠臣蔵』は、歳末の風物詩になっています。敵討ちとは、主君や近親者が殺された場合、家臣や一族の者など第三者が復讐の目的でその殺害者を討ち殺すこと、と辞書などに記述されています。しかし江戸時代には勝手に仇討ちは出来ない事になっていて、主君や幕府の許可が必要でしたので、幕府の公儀『御帳』に登録し証明書を携帯しなければ、仇討ちが成功しても証明されず、ただの殺人と見なされたようです。

### ●布施平太夫の敵討ち

秋田で知られているものに、布施平太夫による敵討ちがあります。平太夫は三代藩主佐竹義処の側室智清院（布施氏）の従弟にあたり、その縁で佐竹家に仕官した人です。智清院は四代藩主佐竹義格の実母です。

元禄十五年（一七〇二）七月十二日、江戸八

王子に住む実兄山内平兵衛が、日ごろから世話をしていた遠縁の太田又左衛門に斬り殺されたという知らせが入り、平太夫は兄の敵討ちを決意し、藩主に永の暇乞いを提出して、敵の行方を捜す永い旅路に出ました。各地を尋ね歩き、苦節六年ついに敵に巡り合います。

宝永五年（一七〇八）二月十一日、ところは

上州廻橋、現在の群馬県前橋市玉村の八幡社内に念佛堂があつて、丁度初午の日で参詣者が多く混雑していました。平太夫は念佛堂に立ち寄

り湯を所望しました。平太夫の下人の団七が庫書俱樂部

裏に湯を貰いに行き、勝手の戸を開けると、僧形の太田又左衛門がいるのを見つけました。お互い目が合うと、途端に又左衛門が裏口から逃げ出したので追いかけて捕らえ、中庭へ引き出しました。その時平太夫も出て「又左衛門か！」とすると、「良くなないことをして申し訳ない、平兵衛の後生の為に出来て仏を弔つてあります」と命乞いをします。それを念佛堂の住僧が見て、寺内で何事かあれば拙僧が迷惑するというので、その向いの十王堂の庭へ引き連れると、大勢の見物人が取り巻いたといいます。

平太夫は又左衛門を見て、丸腰の者を討つては女人にも等しいとて、「これで向かってこい」と自分の刀を又左衛門に渡し、平太夫は脇差しで立ち向かいます。又左衛門が逃げようとしたところを、頬先より左の乳の下へ切り下げ、倒れたところを二刀で止めを刺したといいます。こうして平太夫は見事に本懐を遂げ無事帰国することになります。そしてお暇ご免となり、新知二百石を与えられたといいます。

### ●小貫駒之助の敵討ち

明和六年（一七六九）六月九日、手形新屋敷の泉市右衛門屋敷脇の堰に、小泉弥生という武士の切り殺されている死体が発見されます。前

号62を立てるところを二刀で止めを刺したといいます。やがて残った小貫弥生と大塚熊之丞は、まだ飲み足りないとて手形田中村の酒屋六右衛門店で沈醉するまで飲んだといいます。多

くのうちに、江戸の松平越後守家の厩別当をしているという情報が入りますが、これも空振りに終わつたようです。いずれこの敵討ちは、実現した記録はないので本懐は遂に遂げることはできなかつたようです。

敵討ちは、制度化はされていなかつたのですが慣習として、武士は格下の者が敵討ちをしなければならなかつたようです。討つ方が幼なかり、力が相手より劣る場合は助太刀を許可されていました。

資料・「国典類抄雜部」「伊豆園茶話」  
「岡本元朝日記」ほか  
【嵯峨稔雄】

弥生の刀と自分の刀を二本抜き身のままぶら下げ帰つて来ます。養父藤次右衛門はじめ居合わせた人たちで押さえつけ寝かせます。当人は大鼾で寝ていましたが、蚊帳の中でいつの間にか身支度し、朝になるとむつくり起き上がり、押しこめられに隠していた刀を引き出すと一散に田んぼの方へ駆け出します。後を追う人たちを睨みつけ立ち去つたといいますが、太平村を通り山越えで何處となく逃亡したといいます。

一方、殺された弥生の子供駒之助はまだ十二歳でしたので、十六歳になれば敵討ちに出ることになり、家禄と家屋敷は没収され親類に預けられることになります。養育費として五人扶持（一人扶持は一日米五合）を与えられ、十六歳になれば藩に届け出ることになりました。

安永二年（一七七三）、十六歳になつた駒之助は町奉行に敵討ちに出立したい旨を届け出ます。熊之丞の居場所については、丸之内・上野・増上寺内・日光などで見たという情報が入りますが、敵討ちは実現しなかつたようです。安

永六年（一七七七）にも、江戸の松平越後守家の厩別当をしているといふ情報が入りますが、これも空振りに終わつたようです。いずれこの敵討ちは、実現した記録はないので本懐は遂に遂げることはできなかつたようです。

敵討ちは、制度化はされていなかつたのですが慣習として、武士は格下の者が敵討ちをしなければならなかつたようです。討つ方が幼なかり、力が相手より劣る場合は助太刀を許可されていました。